

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々から大事にされる、小さくてもきちんと光るグループホームを目指している。	毎日理念として職員には伝えていないが、職員同士で理念を共有し合い、日々のケアの中で、利用者一人ひとりの「個」を大切にしながら、一人ひとりを大切に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表がこの地域で生活しているので、普通の近所づきあいをしており、事業所も自然な形で交流している。	日頃から地域とのつながりを大切にしており、近所の方のお宅を訪問したり、施設行事への参加呼びかけも、積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方をととても大事にしている事業所の姿勢を十分理解してくれていると思われるので、地域の方それぞれの家族の中で記憶力・理解力の低下した方に対する温かい対応の気持ちを持っていただけていると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価にはとても興味を持っておられるので、いろいろな意見・アドバイスをいただきます。	2ヶ月に1回 定期的に開催している。会議には、地元の町内会長や公民館館長、高齢者支援センターの方、御家族の方々が参加され、施設での困りごとや相談を議題に、意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困ったこと、わからないことはよく相談にのってもらっている。	行政から介護相談員に来て頂いてサービス等の相談をしたり、市町村主催の研修へ参加したりして、積極的に市町村と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	よく理解し、拘束は絶対しないようにしている。	自由に表に出られるよう玄関の施錠はしないで、できるだけ職員の見守りのもと、積極的に外出支援を行っている。また、施設内で拘束の研修会を行い、できるだけ自然体でのケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護上での相談がよくできる職場の雰囲気作りをしている。職員がストレスを溜めず、ゆとりをもって介護できるよう話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所として、利用者が困ることがないように、しっかり支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は丁寧にするよう心がけている。質問には謙虚に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	それぞれの宗教観を大切に、尊重している。入居者は遠慮をせず自由に信仰の生活を送っている。	家族の面会時には、生活状況などを具体的に話し、要望等を伺う様にしている。また、毎月家族宛に手紙を出しており、近況を伝える体制が整っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、または必要な時に意見を交換する会議を開いており、失敗をおそれずいろいろな提案が反映されるようにしている。	代表者参加のもと、必要に応じて随時ミーティングを行い、職員が気軽に意見が言えるような雰囲気作りを行っている。代表者は職員の意見や提案を聞き入れ、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	5つの事業所とよく相談したり、交流したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで家族の希望や本人の気持ちをしっかり聴き、また、サービスを始めてからも本人から困っていることや訴えをしっかりと聴くようにし、安心して生活してもらえようゆっくり関わり介護の創意工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関わりは特に大事にしているので、家族の気持ちをしっかり聴いて、ご家族それぞれの思いに沿った介護をしていくよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	短期入所、おためしでの入居、信頼できる医療機関の選択、訪問看護等々、現実的な相談にのっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の知らないことで、ご本人がご存じのことが実に多く、いつも頭の下がる思いをしている。一緒に生活して作業など一緒にしながら、いろいろ教わっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が安心して生活できるように、ご家族も一緒に考えてもらったり、支援してもらったりしている。泊ってもらったり、外食したり、また、通院の援助をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活をしっかりイメージして安心できる生活環境を提供している。また、家族・親戚・知り合いが遠慮なく来てもらえるような雰囲気にするよう心がけている。自宅に帰られたり、お墓参りに家族と行かれたりしている。	昔馴染みの方達が自由に来訪できるよう湯茶のサービスや、雰囲気作りに気を付けている。また、自由に自宅にも帰られるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活環境・性別・職業など生活歴が全く違う方の共同生活なので、折合って気持ちよく生活していただくには適切な支援が必要です。支え合って生活する喜びを感じていただきたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方と職員が共に生活し、ご家族の方と共同で支援しているため、利用が終了しても自然といつも気になり、相談にのったり、援助したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に生活していると、どんなふうに住生活していきたいか分かってきます。本人の意向に沿った生活になるよう職員は絶えず相談し、検討している。	入所時の聞き取りにおいて、できるだけ利用者御本人の生活史を知った上で日々の生活が不安なく送れるよう、本人の思いや希望を尊重しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・入居前利用のケアマネジャー・事業所等によつたずね、これまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・家族などから時間をかけてゆっくり伺っているが、日々の介護の中でも職員が丁寧に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時サービス担当者会議を開催し、本人・家族の意向を尊重し、意見を遠慮なく交換しながら、現実に応じた介護計画を作成している。	状況に変化がなければ6ヶ月に一度、ケアプランを見直し、ご家族にも理解してもらえよう具体的な支援内容を取り入れ、また、カンファレンスを行いながら、チームでプランを作成している。最終的にはご家族の同意に基づき、計画が実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々利用者毎に詳細に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護にタイムスケジュール等は作成しておらず、その時々ニーズに合わせて、職員が相談しながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の花や木々を見ながら散歩したり、近所のスーパーでお買い物をしたり、子供会・老人会などの行事に参加したりしている。お庭を拝見させてもらったり、招き入れて頂いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している医師は2週間毎に往診に来て下さり、薬を処方してくださっている。先生のクリニックへ職員が受診に同行している。緊急時にも来て下さったり、指示をしてくださったりで、適切に対応してくださっている。	週2回のかかりつけ医の往診の他、ご家族希望の病院の受診も行なわれている。また、夜間、緊急時においては、提携の総合病院との連携も行なわれており、安心して医療が受けられる体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は入居者の体調を良く把握しており、医師と連絡をとりながら利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の方は、環境の変化に弱いので、入院はできるだけ短期間になるよう配慮してもらっている。重井病院と提携しており、かかりつけ医と連絡を取りながら、入居者が安心した療養生活を送れるよう気を配っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と医師・当事業所と十分話し合い、事業所でできることを十分説明して医師の指示に沿って重度化した場合や終末期の援助を行う。	家族の希望において、主治医との連携が整えば、看取りも可能である。また、医療依存度の高い方への対応も臨機応変に行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の知識を身につけており、また看護師・施設長とも迅速に連絡できるようにしている。急変時にそなえて、体調説明のための書類を整理している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制はあるが、もっとしっかりした体制づくりのため、話し合い進行中である。	年2回、避難訓練を行っている。また、日頃から地域と防火についての話し合いが持たれ、地域の防火訓練にも参加している。スプリンクラーの設置も完了し、災害に対する体制も整っている。	積極的な地域交流を生かして、地域を巻き込んだ避難訓練の実施を提案します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当ホームが最も気を配っているところで、一人ひとりの人格・誇りを大切に介護を心がけている。個室もトイレ・洗面完備で家の造りもプライバシーを大切にしている。	各居室にトイレを設置し、排泄時のプライバシーの保護に努めている。また、個人情報においては厳重に管理され、職員退職後の個人情報の取り扱いにおいても、充分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は自分本位の介護にならないように、本人の意思を尊重した介護をおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりと生活していただき、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身につける物すべてに配慮している。また、整髪・理容などすっきりと良い身だしなみでいるよう気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを大事にして、楽しく買い物・調理をし、食事を楽しんでいる。また、庭で食事をしたり、外食したりして楽しんでいる。	食卓には季節感を出すよう花を生けたり、季節の旬の野菜を出来るだけ食材に取り入れたりしている。また、手作りのおやつを皆で作って、食の楽しみを日常的に味わえるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や習慣をしっかりと把握しており、1日を通じての食事量や水分量をしっかりと確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・義歯の清潔の確保など、職員が気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切にトイレ誘導してトイレでの排泄や排泄の自立の支援をしている。	他者に配慮しながら、さりげなく居室へ誘導し、居室内のトイレで排泄支援を行なうようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸を動かす体操をしたり、食事・水分に気をつけたり、一人ひとりに合った工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者に意向をたずねたりしながら、ゆったりと入浴を楽しんでもらっている。清潔を保たないといけないので、適切に個々にそった支援をしている。	入浴拒否の場合でも、最低2日に1回は入浴できるよう支援している。また、失禁時は随時、個人を尊重しながら対応している。日々の掃除が行き届いている為、浴室は清潔に保たれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣にあわせて、部屋の温度を調節したり、あかりを調節したり優しく話しかけたり、工夫をしながら安心して眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師・看護師・介護職員が症状の変化を確認し、連携を取りながら適切に服薬の支援をしている。特に薬剤師が連絡を密にとりながら援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	少しお酒を召し上がったりが、ガーデニングを楽しんだり、歌を歌ったり手芸をしたりして。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩はほぼ毎日している。ドライブにもよく出かけている。花や木々を見たり、海・山を見に行ったり、季節の変化を楽しんでいる。みんなで出かける時もあれば、一人ひとりで希望にそって出かける時もある。家族の援助もある。	天気の良い日は、できるだけお弁当持参で戸外に出かけている。買い物支援も随時行ない、本人の希望に沿うよう支援している。また、ご家族の協力のもと、外泊や外出も行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のトラブルは避けたいが、お金を持っている安心感があったり、買い物の楽しみがあったりするので、一人ひとりの希望・状態を考慮しながら適切に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が安心されたり、孤立感が軽減されたりするので、家族と協力しながら適切に援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーを大事にし、安心して生活できるよう工夫が十分できている。	ホール内の天井は高く、開放感が感じられる。また、絵画や花等を飾り、落ち着いて過ごせる雰囲気作りに気を配っている。そして、テラスには、オリーブの木々が眺められるよう椅子が設置され、居心地良く暮らせる工夫がある。冬は、床暖房にて、自然のぬくもりが感じられるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広くゆったりした空間づくりになっているので、居場所はしっかり確保できていると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の希望に沿った気持ちの良い居室空間である。	車椅子移動も充分可能な広い居室空間が提供されている。また、各居室には自宅で使われていた好みの物が持ち込まれており、居心地良く暮らせる環境が随所にみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	創意工夫がなされていると思う。		